

## 注目技術賞



(株)建設技術研究所

防災

### VRにより点検技術を取得 —構造物点検VR研修システム—

橋梁定期点検時に必要な基礎技術の習得を目的に、VR（仮想現実）により橋梁の定期点検を疑似体験し、クイズ形式で点検のポイントを学習できる、特に若手技術者をターゲットとした研修ツールを開発しました。VRを用いることで、実際に現場に行かなくても、鋼橋、コンクリート橋といった様々な橋梁形式における色々なバターの損傷（問題箇所）を、若手技術者が自ら発見・回答することで、橋梁点検に必要な技術や知識を、楽しみながら学習することができます。



システムを用いた研修状況

Tel 03-3668-4393 <https://www.ctie.co.jp/>

## 注目技術賞



大成建設(株)

施工

### 発電遮音壁 「T-Green® Multi Solar」

建物への適用展開中の外装一体型太陽電池モジュール「T-Green® Multi Solar」を発電遮音壁として提案します。高速道路のサービスエリアやパーキングエリアの休憩施設にも適用可能です。

- 1) T-Green® Multi Solar ソリッドタイプ
- 2) T-Green® Multi Solar シースルータイプ

### 環境配慮コンクリート 「T-eConcrete®」シリーズ

コンクリートの材料製造にかかわるCO<sub>2</sub>排出量のうち、90%以上がポルトランドセメントの製造時に排出されます。「T-eConcrete®」はセメントの一部またはすべてを産業副産物やカーボンリサイクル製品に置換えて、CO<sub>2</sub>の排出削減やCO<sub>2</sub>収支のマイナスを実現します。

Tel 06-6265-4540 <https://www.taisei.co.jp/>

## 審査委員特別賞



(株)ノリタケマシンテクノ／(株)オリベ

コスト縮減

### 超硬丸鋸を使用した、全自動 鉄筋用精密切断機

鉄筋のトータルサプライヤーであるオリベの100年以上にわたる知見と、ノリタケの超硬丸鋸切断機のノウハウを活かして、鉄筋切断時の全工程を自動で行う本製品を共同開発しました。①鉄筋切断工程の省人化：給材・搬送・切断を全自動化し、省人化・作業効率向上に寄与します。例）鉄筋切断工程1ラインに必要な人員：3名→1名 ②高精度な切断面：機械式継手などで求められる、高精度な精密切断を実現。③マーキングの自動化（オプション）：マーキングを自動で行う装置を搭載可能です。④切断順序の最適化（オプション）：端材を最小限にする自動計算ソフトと連動可能です。



Tel 06-6208-6603 <https://noritake-mt.jp/> <https://www.oribe-jp.co.jp/>

## 審査委員特別賞



NEXCO西日本イノベーションズ(株)

安全・安心

### 高解像度カメラを用いた画像撮影システム (AutoCIMA)

橋梁下面や橋脚などのコンクリート面を高解像度画像として自動撮影し、その画像からひび割れ等の自動検出を行うシステムです。高性能デジタル一眼レフカメラを独自開発の電動雲台システムと組み合わせ、専用制御装置（PC）とソフトウェアにて、誰でも簡単にあおり補正済みの高解像度の展開画像を得ることができます。撮影解像度を0.5mm/画素とすることで、0.2mm幅のひび割れをAI技術により自動検出できます。さらに、鉄筋露出、はく落跡、エフロレッセンスも自動検出可能です。



AutoCIMA撮影イメージ

Tel 06-6350-6132 <https://w-nexco-inv.co.jp/>

## 審査委員特別賞



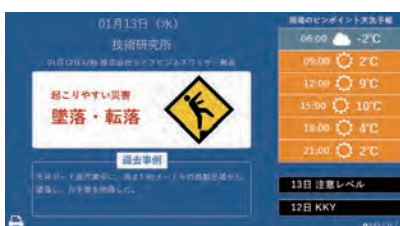
安藤ハザマ

施工

### 安藤ハザマの気象情報を活かした 「安全・品質・環境」管理技術 KKY(気象-危険予知)

現場周辺1km×1kmのピンポイントな気象データを活用し、工事の安全管理・品質確保・環境保全を支援するツールを開発・現場展開しています。

●KKY:気象ビッグデータをもとに「その日起こりやすい労働災害」を推測しWEBで配信



「その日起こりやすい労働」を推測

Tel 06-6454-2690 <https://www.ad-hzm.co.jp/>

## ベストブース賞



(株)大林組／大林道路(株)

施工

このたび、ご来場いただいた方々の投票により4年連続で『ベストブース賞』をいただけたことを大変光栄に思っております。大林グループはこれまで培ってきた「ものづくり」の技術と知見を活かし、新たな技術開発に日々取り組んでいます。本展示会では、生産性向上と働き方改革を推進するIT・ICT技術、脱炭素社会の実現に寄与する技術や、インフラの維持管理時代を支える道路更新技術について、パネル展示やプレゼンテーションによりわかりやすくご紹介させていただきました。来年もご来場される方々へ、新たな技術を展示できるように努めて参ります。



<http://www.obayashi.co.jp/> <https://www.obayashi-road.co.jp/>